

令和 4 年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
自己評価書

横浜市立金沢高等学校

<学校情報>

1 課程・学科 全日制の課程・普通科

2 学校長 永瀬 哲 (令和5年4月1日現在 在職1年目)

3 学校教育目標

- 自主自立の精神を養い、創造性豊かな調和のとれた人間を育成する。
- 意欲的に学ぶ態度を養い、高い学力と幅広い教養を育成する。
- 進路探究を通して、高い志を持って自らの進路を切り拓く力を育成する。
- 思いやりを持ち、互いの人権を尊重するとともに、社会に貢献する態度を育成する。
- 生命を尊重し、自然や環境を大切にする心を育成する。

4 教育方針

(1)高い学力と幅広い教養の育成

- ・映像授業等を活用し家庭学習習慣の定着を図り、2年生では平均家庭学習時間90分を確保する。
- ・授業力向上を図り、授業評価の満足度90%以上を目指す。
- ・共通テストでの平均得点率75%以上の受験者が30%以上を目指す。

(2)希望する進路の実現

- ・データに基づく個別指導により、一人ひとりが希望する進路の実現に向け、最後まであきらめずにやり通せる環境をつくる。その結果として現役生徒の国公立大学・難関私立大学進学者数50%以上を目標とする。

(3)横浜市立大学との高大連携の充実

- ・各学問分野の大学教員による「高大連携特別講座」、大学生とともに学ぶ「高大連携講座」、市大インストラクターによる「プラクティカルイングリッシュ」について評価を行い、生徒の満足度80%を目標とする。

(4)社会貢献活動の推進

- ・社会貢献活動やボランティア活動の充実を図るため、地域と連携した活動場所を5カ所以上確保する。

(5)国際交流活動の推進

- ・姉妹校の生徒及び教職員との定期的な相互交流を実施する。また、情報通信機器を活用し国際交流活動を充実させる。

5 教職員数（令和4年12月1日現在）

学校長 1 校長代理 0 副校長 2 事務長 1
 教 諭 66 （男 38 、女 28 ） 養護教諭 2
 実習助手 1 事務職員 4 技能職員 3
 A E T 2 非常勤講師 3 管理員 0

6 生徒在籍数（令和4年12月1日現在）

年次（学年）	学級数	男 子	女 子	合 計
1	8	177	141	318
2	8	166	149	315
3	8	166	146	312
4				
合 計	24	509	436	945

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		68	31	45.59 %
生 徒	1年	318	311	91.51 %
	2年	315	301	95.56 %
	3年	312	252	80.77 %
	4年			
	合 計	945	875	92.59 %
保護者		945	675	71.43 %

8 自己評価実施日

教職員	令和4年12月9日～令和4年12月17日
生徒	令和4年12月9日～令和4年12月19日
保護者	令和4年12月9日～令和4年12月19日
地域	令和4年12月9日～令和5年3月20日

9 集計・分析期間

令和4年12月19日～令和5年3月24日

10 自己評価書の公表方法・時期

令和5年6月 学校ホームページにて報告

<自己評価>

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員1、保護者1)

取組	<ul style="list-style-type: none">・進学指導重点校の使命を達成することを目的に平成22年度から3年間設置した文理特進コースに替わり、平成25年度から一括募集による特進クラスを設置し、全学年で2クラスが特進クラスという構成になった。平成28年度入学生からは、全クラスで特進プログラムを継続実施している。また、令和4年度より名称をKANAZAWAプログラムに変更し、内容の充実に向けての検討を将来構想委員会が中心となって進めている。・令和4年度から実施された新教育課程に合わせ、特進プログラムからKANAZAWAプログラムへと名称を変更し、内容についてもより良いものにするために再検討を図っている。特進プログラムを継続しつつ、より現在のニーズに合わせたものへの変更が見込まれる。・全職員による研修会を複数回行い、学校の現状を把握し、魅力ある高校教育の推進のため、より具体的な目標の設定を継続的に検討している。
成果	<p>[教職員による学校評価] P.1の【1】</p> <ul style="list-style-type: none">・魅力ある高校教育の推進に関する取組について、令和3年度は90%の肯定的回答を得たが、令和4年度は73%となった。KANAZAWAプログラム、総合的な探究の時間の内容などについて、職員間での共通理解がまだ十分でないことが考えられる。 <p>[保護者による学校評価] P.3の【1】</p> <ul style="list-style-type: none">・85%の肯定的な回答を得ている。令和2年度、令和3年度の2年間を見ると70%台の数値であり、わからないという回答が10%だったことと比較すると、学校の取組の効果が表れている。引き続き高い水準での理解が得られるよう、取り組んでいく必要がある。

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラスで実施されている KANAZAWA プログラムの内容、実施については、担当部署を中心に企画・運営をしている。プログラムについては、更にその内容を充実させることのできる部分もあり、その点を改善していくことが課題である。 ・夏期講習期間を8月におよそ一週間設けた。部活動に所属している生徒の出席については、顧問と事前に調整をすることで、少しずつ改善がみられている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想委員会、新教育課程委員会などが中心となり、職員研修会を継続して行うなど、職員間での共通理解を図る必要がある。今後も職員研修会を継続的に実施し、グランドデザインと KANAZAWA プログラムについて共通理解を図り、学校全体で魅力ある高校教育に取り組める組織作りをする。 ・KANAZAWA プログラムの充実のために、各教科や各分掌で内容を検討し、情報を共有しながら研修を深める。 ・総合的な探究の時間を軸とした、全体像の見直しを検討しており、それに伴うプログラムの変更も検討する。

2 教育活動の状況

□教育課程の状況

(関連アンケート番号：教職員2～3、生徒1、保護者2)

取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間、LHRを含むすべての科目の指導において、生徒一人ひとりの進路実現を目指している。ガイダンスや三者面談を取り入れて保護者の理解を得ながら、生徒にとって適切な進路指導を行っている。 ・横浜市立大学との連携により、生徒が視野を広げ、自らの進路について熟考し、自身の進路に合わせた選択科目を決定できる機会を設定している。 ・KANAZAWA プログラムを推進し、1年生では英語・数学の基礎学力の定着、2年生では英語の発展的な能力の向上を目指した教育課程の編成を行っている。 ・新教育課程委員会を中心に、令和4年度から実施された新教育課程について、令和3年度から引き続き研修を行い、評価・評定について共通理解を図った。
-----	--

<p>成 果</p>	<p>〔教職員による学校評価〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P. 1 — 【 2 】 について、肯定的評価は令和 2 年度から引き続き減少傾向にあり、84 パーセントとなった。【 3 】 については令和 2 年度減少した数値からわずかではあるが改善が見られた。今後も、全職員が学校目標や指導要領などを把握し、それらを念頭においた授業展開・課程の再編成の検討が必要である。 <p>〔生徒による学校評価〕 P. 2 — 【 1 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肯定的評価は 93 パーセントと令和 3 年度とほぼ同じ高い数値であった。すべての学年において否定的意見が少なく、ガイダンスや面談を通じ、個人の希望に沿った選択指導が行われた大きな成果であるといえる。今後も、生徒たちにとって最適な教育課程の検討を継続的に行っていく必要がある。 <p>〔保護者による学校評価〕 P. 3 — 【 2 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肯定的評価は 86%で令和 3 年度の 73%と比較してかなり上昇した。わからないと回答したのは 6 %であり、令和 3 年度の 12%からは減少した。三者面談や教育懇談会を通じて保護者への理解は進んでいる。引き続き面談や教育懇談会を通して、教育課程について理解してもらい、家庭と連携しながら生徒の進路実現に向けた指導をしていく必要がある。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の理解を得ながら、生徒の進路にとってよい選択できるよう継続的な指導を行っていく必要がある。 ・ 教育課程の編成や 2, 3 年生の選択科目について、職員が共通認識を持つ必要がある。 ・ 高大接続改革により、生徒に求められる資質・能力が変わってきているため、教科内での検討と学校全体での共有が必要である。 ・ 新学習指導要領実施のために、生徒のニーズに対応する新たな教育課程の編成が求められる。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2 学年での新教育課程の実践から、学校全体で情報共有をし、令和 6 年度の完全実施に向けて、継続的な検討、検証を行う。 ・ 生徒・保護者との連携を密にし、生徒が自らの進路について深く考え、自身の進路にふさわしい選択ができるよう丁寧に指導を行う。 ・ 学校全体で新たな教育の在り方を検討し、本校の生徒にふさわしい展開について議論を深める。 ・ 各大学の入試情報を整理し、入試改革に伴う生徒に求められる資質能力を明確化し、授業の展開や教育課程の編成を検討する。

□教科指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 4～6、生徒 4～10)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科が生徒の実態に即した指導計画を立て、授業ガイドで「教科の目標」・「学習のねらい」を生徒に周知し、授業を展開した。 ・生徒への「評価の観点および方法」の説明は、授業ガイドを用い具体的に行うよう努めた。令和4年度施行の新教育課程における評価をふまえ、各観点を意識した授業を展開した。 ・指導と評価の一体化を図るため、生徒による授業評価（記述式）を教科担当がそれぞれ実施し、その結果をふまえ、以降の授業改善に努め、2回目となる授業評価（マーク式）を12月に実施した。 ・夏期講習を習熟度に応じて講座を分けるなど、指導の充実を図った。
成果	<p>〔教職員による学校評価〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P.1—【5】「生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている」に関して令和3年度の76%から令和4年度93%と肯定的回答が上昇した。【6】評価・評定は平成29年度から令和3年度までの5年間で80%→76%→63%→60%→52%と大きく減少したが、令和4年度は、78%まで回復した。各科目において、年間計画を立てて生徒へ周知し、定期テスト問題を共通にしたことが、改善につながったと考えられる。 <p>〔生徒による授業評価〕 P.4—【令和4年度・肯定的評価の割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年によって多少の違いは見られるが、教諭の指導の7項目全てにおいて学校全体では90%以上の水準を維持し、肯定的評価の割合が令和3年度よりも1～3ポイントずつアップしてきている。各教科とも学校教育目標に応じた計画を立て授業が行われており、授業力の向上に力を注いでいると考えられる。 ・P.4【学習評価】の項目の値は令和3年度と同様に全項目中最大の値（令和4年度は95%）となっており、生徒の信頼を十分に得られている。
課題	<p>〔教職員による学校評価〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P.1の教科指導について、令和3年度と比較すると、【4】指導計画は90%から86%と減少しており、引き続き、教科、科目担当者間で情報交換等を積極的におこない、指導計画に沿った授業を展開する重要性を各担当が再認識する必要がある。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き年間指導計画等を確認し、それに沿った授業展開を計画し、実践する。 ・評定に当たっては、「知識・理解」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」など多面的な評価を行っていくように、教科として組織的に取り組んでいるが、今後とも評定の数値を検証し、生徒にとって公平、公正な評価となるよう改善を図る。
-----	--

□進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 10、生徒 6、保護者 6)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスを実施し、学年全体としての進路意識を高める取組を行った。 ・1年生に平常時の学習時間や携帯利用時間の調査を定期的を実施し、時間の使い方について振り返らせた。 ・大学入学共通テストや各大学入試の変更点、英語4技能検定の活用状況の情報などを幅広く収集して、対応策などを指導した。 ・有料学習動画アプリの効果的な活用を目指し、希望者に購入させた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・P.2—【6】について、全体的には肯定的回答が91%と高い数値を示している。オープンキャンパスなども対面で行われつつあり、十分な進路情報が得られたようだ。学校内でも情報発信を積極的に行っていく必要がある。 ・P.1—【10】教職員とP.2—【6】生徒からはおよそ9割の肯定的評価を得ている。P.3—【6】保護者からの肯定的な評価も令和3年度の75%から85%と上昇した。校内での指導の状況などを学年だよりや進路説明会等で積極的に発信した成果だと考える。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高大接続改革など大学入試において様々な変更が続いているので、的確な情報収集と先を見通した進路指導計画が必要である。 ・生徒が対面に加えて、オンラインでも情報を収集し、進路意識を高めるための指導を構築する必要がある。 ・学校職員全体が進路指導に向かう共通の認識を高めることが、重要な課題である。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変化する大学入試の状況や英語 4 技能検定の活用の状況を、生徒と教職員に的確に提供する。 ・ ホームルームで、特にオープンキャンパスに関して、オンラインでの参加も含めて、情報を得るための指導を継続する。 ・ 学習時間と携帯利用について、時間調査の振り返りを有効に活用して自身の時間に対する意識を高めるための取り組みを継続する。 ・ 学年だよりなどを通じ、保護者に進路指導の状況を的確に提供する。 ・ 一人ひとりの生徒の状況に応じた指導ができるよう、模擬試験のデータなどを活用し、学年集会、ホームルーム活動、面談などを充実させる。
-----	--

3 学校経営の状況

□ 「組織運営及び教職員研修」の状況

(関連アンケート番号：教職員 13～18)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年組織と校務分掌が効率的に連携できるように分掌担当者を配置し、年間を通して円滑な学校運営が実現できるよう配慮した。 ・ 学年組織と校務分掌の代表による企画調整委員会を定期的を実施し、効率的・効果的な学校運営に努めた。 ・ 働き方改革を意識して目標設定を行い、教職員が共通認識をもって学校組織・行事の精選を協議、推進するよう努めた。 ・ 進路研修会、生徒指導研修会、人権研修会等を計画的に設定し、新型コロナウイルス感染症等の新たな課題にも対応できるよう、学校全体として本校の課題や方向性について確認・共有し、組織として取り組む姿勢に努めた。 ・ 授業力向上に高い意識を持ち、今年度の授業の充実、改善のために授業研究、横浜市進学指導重点校指導力向上研修を実施した。
----	---

<p>成 果</p>	<p>〔教職員による学校評価〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P. 1 — 【15】 の職員組織（校務分掌も含む）について、令和 3 年度と比較して肯定的評価が 18 ポイント減少して 65%になったが、学年組織と校務分掌に加えて委員会組織のありかたも検討しながら改善に向けて取り組みを継続できた。 ・ P. 1 — 【13】 の学校教育目標について、令和 3 年度と比較して肯定的評価が 18 ポイント減少して 67%となっているが、本年度はスクールポリシーを策定し、教職員が学校教育目標に向かって組織として校務に取り組めるよう研修会等をおこなった。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の異動により業務の引き継ぎについて、各組織で工夫が必要である。次世代の人材育成も含め今後の課題である。 ・ 働き方改革の視点では、まだ十分な取組であるとはいえない。一人ひとりの意識と全体の組織を見直す必要がある。 <p>〔教職員による学校評価〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P. 1 — 【18】 の研修では、最近数年は肯定的評価は 65%前後となり、令和 4 年度は否定的評価が 33%と高い数値になっている。ICT 機器の活用など時代の変化により必要な研修を実施する必要がある。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員全体で、業務の引継ぎ内容を「いつ 誰が見ても 理解し実践できる形」にしていくことを心がけたい。仕事が人につくというスタイルを見直し、電子データ化及び紙媒体の資料整理を進め、組織として業務を行うシステムを構築する。 ・ 職員研修については、 <ol style="list-style-type: none"> ①教職員一人ひとりが考える本校の課題について共通理解を図る。 ②その課題解決へ向けて、どのような研修が有効であるか、教職員全体ののぞむ研修のあり方を確認し、実施する。 ③日常的に研修が行えるようにメンター教員による研修など必要に応じて適宜短時間で行い、学校としての方向性を確認し、経験の浅い職員の支援につなげる。

□ 「危機管理」の状況

(関連アンケート番号：教職員 25～26、生徒 14、保護者 11)

<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度改訂「防災計画」(学校ホームページに掲載)の内容に沿って 1 次避難、2 次避難を含めた防災訓練を行う予定であったが、令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症防止措置をとった上で、校内の避難経路の確認を実際に行うことができたことで防災意識が高まった。 ・警報発表時や災害時の対応について、PTA 広報紙、学校ホームページへの記載や保護者会において保護者への周知を図ったり、生徒には日常の活動の中や避難訓練時に指導したりするなど、機会あるごとに指導を行っている。 ・緊急時の情報発信を迅速化するために、緊急配信メールや Web ページの活用を継続している。 ・防犯対策として、防犯カメラの更新、来校者への名札着用の義務化、学校行事時の校内施錠、担任による貴重品の預かりなどを行っている。
<p>成果</p>	<p>[教職員による学校評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P. 1 — 【25】の安全対策については、87%の肯定的回答を得ている。避難訓練時の職員の動きを細分化したことで、一人ひとりの役割を明確にすることができた。 <p>[保護者による学校評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P. 3 — 【11】において、ほぼ令和 3 年度と同様に肯定的意見は 78% となり、警報発令時や災害時の具体的な対応については、おおむね周知されていることが分かる。今後もメール配信や学校ホームページを利用し、保護者の安心感を高めていく必要がある。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による評価 P. 2 — 【14】避難経路の確認について、この項目の肯定的回答の数値が 56% に上昇した。理由については、今年度は学期初めや学期末に何度かの避難経路の確認に加えて、大津波警報発令時と火災発生時など、想定する場面によって避難経路(上層階に行くか下層階に行くか)が違うことを確認し、避難訓練の回数が年 1 回と少なかったが、校内の避難経路を実際に動いて確認したため、防災意識が高まった。校内の研修会や、外部機関等の連携を強化し、対応していく必要がある。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価では、半数近くの生徒が校内の避難経路をよく知らないと答えている。生徒が安心感をもって生活できるよう、避難経路の見直し（簡潔化）や避難訓練の実施回数の変更などを検討する。 ・研修会や訓練を通して、職員の防災意識を高めていけるよう、さらなる啓発が必要である。防災委員会の組織を見直し、学校防災が実効的に運営できるようにする。
-----	---

4 いじめへの対応に関する項目

いじめへの対応

（関連アンケート番号：教職員 28）

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回実施されるいじめ防止対策委員会を中心に、学校全体で情報を共有した。いじめアンケートを通して得た情報や各クラスで行う教育相談等の情報から、組織でいじめに対する適切な支援や対処を行った。 ・学級担任、保健室及びスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの関係機関と連携し、生徒や保護者の相談活動の充実を図った。従来は学期に1回であったサポート委員会を状況に応じて開催し、管理職や関係職員及びスクールカウンセラーとの情報共有を図るとともに学校の中心として組織的に機能させた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年からあがってきた課題について、サポート委員会を中心に、学校全体でその解決に向けて支援することができた。 ・保健室やスクールカウンセラーとの連絡を密に行い、生徒の様々な課題に対応し、支援することができた。
課題	<p>〔教職員による学校評価〕 P. 1 — 【28】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめへの対応については、前年より低下し86%の肯定的評価となった。昨年度はいじめに限らず様々な事例が発生したが、担任教員だけでなく組織全体として取り組んだ。いじめ対応に関しては敏感に察知する危機感をもって対応していく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に関する情報の共有から指導につなげる組織体制をより充実した形に整備し、学年・生徒支援部・サポート委員会を中心に学校全体で一人ひとりの生徒を支援していく体制を継続させる。 ・いじめ事案が発生した際に、的確かつ迅速に対応できるようにマニュアル化を進め、連絡系統・指示系統を確立した組織作りを目指す。